

令和2年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 20

千葉県立犢橋高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

基本的な生活習慣が身につけており、高校生活を真面目に取り組むことができる者。

さらに、本校の教育活動の特色を理解し、次のいずれかに該当する者。

ア 学習全般に興味・関心があり、入学後も意欲的に学習活動に取り組むことができる。

イ 中学校での部活動等で優れた資質や実績を有し、入学後も3年間意欲的に当該部活動を継続する強い意欲がある。

ウ 中学校での生徒会活動等で経験や実績を有し、入学後も意欲的に生徒会活動等に取り組むことができる。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者4名ないし5名・評価者3名の集団面接 検査時間：1グループ約15分
(4) 自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 文章による自己表現 実施形態：検査室で一斉に実施 字数：400字以上600字以内 検査時間：50分 イ 実技による自己表現 実施形態：個人またはグループで実施 次の部活動実技のうち、1つを選択 バスケットボール（男女）・バレーボール（男女）・野球（男）・剣道（男女）・硬式テニス（男女）・陸上競技（男女）・サッカー（男） 検査時間：50分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	10点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 アの数値に、イ～エについて加点（上限215点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 教科の評定に1がある、または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間の出欠状況について加点する。 3年間の欠席日数の合計が30日以上の場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	行動の記録の○印の数及び基本的な生活習慣について加点する。 行動の記録の○印の数が2個以下の場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録・部活動の記録・特記事項	学級活動・委員会活動・生徒会活動・部活動・学校行事・その他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述について加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接〔90点満点〕

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

3名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ（aaa～ccc）で得点化する。評価cが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機・高校生活への意欲	志望の動機が明確である。 高校生活（学習・部活動等）に対する意識が明確である。
イ 言葉づかい・質問に対する応答	面接にふさわしい言葉づかいを用いることができる。 質問内容を理解し、適切に回答することができる。
ウ 身だしなみ・態度	服装・頭髪等、身だしなみが整えられている。 基本的な面接作法が身につけている。

(4) 自己表現〔160点満点〕

次のアまたはイについて、それぞれ2名の評価者が、4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。
2名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ（a a～c c）で得点化する。評価cが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

ア 文章による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 字数・構成	指定された字数に対して過不足がない。 全体としてのまとまりがある。
(イ) 言語表記	誤字や脱字がない。原稿用紙の使い方が適切である。 語彙・文法が正しく用いられている。
(ウ) 文章表現	話しことば的表現がなく、適切な文末表現である。 表現する意欲がある。
(エ) 内容	与えられたテーマに対して内容が適切である。 内容が自らの体験等に基づいており、説得力がある。

イ 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 基礎体力・基本的技術	基礎体力が備わっている。 当該種目の基本的技術が身につけている。
(イ) 資質・将来性	当該種目の能力を向上させる資質が備わっている。 将来、堅実に3年間活動することが期待できる。
(ウ) 意欲・態度	当該種目で自己を意欲的に表現できている。 当該種目に真面目に取り組む態度が認められる。
(エ) 姿勢	検査全体を通して真摯かつ前向きな取り組みができる。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接・自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

< 総得点の満点の内訳 >

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点		総得点
	評定（算式1）	加点	面接	自己表現	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	215点	90点	160点	$(1100 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95
 m ：中学校評定合計平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。